

# 行政視察等報告書

令和5年3月9日

長野市議会議員 寺 沢 さゆり 様

報告者氏名（代表）  
観光戦略調査研究特別委員会  
委員長  
長野市議会議員 宮 崎 治 夫

この度、行政視察をいたしましたので、その概要について下記のとおり報告いたします。

## 記

- 1 視 察 区 分 観光戦略調査研究特別委員会行政視察
- 2 視察者氏名 宮崎 治夫 グレート無茶 松井 英雄 加藤 英雄  
小林 史子 黒沢 清一 東方 みゆき 近藤 満里
- 3 随 行 者 書記 土屋 秀彰 前島 諒人
- 4 視 察 期 間 令和5年1月24日（火） ～ 令和5年1月26日（木）
- 5 視察先及び視察事項

視 察 先	視 察 日 時	視 察 事 項
（一社）長崎国際観光 コンベンション協会	1月24日（火） 午後2時30分～ 午後5時～	長崎さるく（体験・講義）
（株）リージョナル クリエイション長崎	1月25日（水） 午前10時～	長崎スタジアムシティプロジェクト
長 崎 県 長 崎 市	1月25日（水） 午後1時30分～	交流の産業化を支える景観まちづくり
愛 知 県 半 田 市	1月26日（木） 午後1時～	知多半島観光圏協議会

6 調査概要

月 日	視 察 先	視察結果 (参考となった事項、考察)
1 / 24	(一社) 長崎国際 観光コン ベンショ ン協会	<p>○ 長崎さるく (体験・講義)</p> <p><b>[長崎市の概要]</b></p> <p>長崎市は長崎県の南西部に位置し、長崎県の県庁所在地及び最大の都市でもあり、中核市に指定されている。人口は40万人弱で特例市である佐賀市を除けば九州地方の県庁所在地である中核市では最も人口が少ない。要因としては「坂の街」ゆえの住宅難がある。</p> <p>「鎖国」体制であった江戸時代には、国内唯一の江戸幕府公認の国際貿易港 (対オランダ、対中国)・出島を持つ港町であった。このため、出島跡を始めとして、異国情緒に満ちた港町として有名である。歴史的経緯からカトリック教徒の数が比較的多いことでも知られており、特にカトリック教会は長崎県単独で一つの大司教区を形成している。</p> <p>このようにかつて日本で唯一海外に開かれ、様々な人や文化が上陸した長崎は、和 (日本)、華 (中国)、蘭 (オランダ、ポルトガルなどの西洋) との交流の中で、独自の文化が育まれてきた。その和華蘭の特色を大いに生かした観光戦略として長崎を歩く「長崎さるく」が誕生した。</p> <p><b>[長崎さるくの概要]</b></p> <p>「さるく」とは、「まちをぶらぶら歩く」という意味の長崎弁で、初めて長崎を訪れた人が楽しめるものから、隠れた魅力を学べる通好みなものまで、多彩な「まち歩き」が用意されており、日本、中国、オランダの文化が混ざり合った長崎独自の「和・華・蘭」文化に触れることができる。</p> <p>長崎さるくは、2005年～2006年にかけてのハード整備の完了 (長崎県美術館、長崎歴史文化博物館、長崎女神大橋、出島) と観光を取り巻く状況の変化のタイミングで、長崎さるく博'06を日本初のまち歩き博覧会として開催を決定し、基本理念の「まち活かし、ひと活かし」を具現化、資源の掘り起こしなど市民参加型で開催された。</p> <p>メニューとして、1. 長崎遊さるく (42コース) 2. 長崎通さるく (31コース) 3. 長崎学さるく (74コース) を用意し、長崎さるく'06は、参加者数1,023万人、経済波及効果865億円という成果を上げ、運営を支えた市民の数は約3万人という結果であった。以降さるく博 (イベント) から通年型にし、年度別にテーマを変えながら継続していた。</p> <p>しかし、年々参加者は減り、アンケートでも改善の余地が多々見受けられ2022年民間を主体とした長崎さるくのリニューアルを行う。</p> <p>今までは長崎市では、長崎さるく、平和ガイド、施設常設ガイドとそれぞれ分かれていたものを全て長崎さるくに統一し、長崎のガイドをすべて行う事となった。</p> <p>【ミッション】は長崎ファンの創出 【コンセプト】は長崎をもっと知りたくなる2時間、もっと好きになる2時間、また訪問したくなる2時間</p> <p><b>[さるく体験の考察]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まち歩き案内ガイドに、坂のまちコース7 居留地路地裏散歩 (東山手) を案内いただき、異国の面影や近代化の歴史に触れることができる長崎市で2006年から続いている長崎さるくを体験できた。</li> <li>・ガイドの方は、「街の人と触れ合う中で楽しんでもらえるように心掛けている。また長崎に来たいと言われることが、何よりうれしい」と語っていた。市民が主体となって地元の魅力を伝える“まちづくり”</li> </ul>

は着実に広がっていると感じるとともに、長野市においても善光寺周辺、松代などのボランティアガイドの皆様が活躍されており、市民の皆様を始め、市外、県外の皆様にも、そして若い皆様にも広く知っていただき、ご案内をいただく取組の必要を感じた。

- ・市民参加型の観光ガイドは、観光としての価値だけでなく、自分たちの住むまちの魅力の発見、地元の人同士のつながりづくり、地域の活性化などといった、市民にとっての価値の高い事業であることが体感できた。

- ・ガイド次第で、満足のいくものになるか、不満が残るのかが決まり、その地に対する印象も変わるため、質の良いガイドの確保が重要であると感じた。先々の人材確保の面からも、ボランティアではなく、プロ意識を持ったガイドが必要で、そのガイドたちの収入を確保するために、しっかりと利益をあげることが大切である。当地では、ガイド料も値上げして給料も一定以上の額を確保するように努めているので、見習うべきものであると感じた。

- ・まち歩きボランティアガイドとしての質をどこまで求めるのか、料金設定を含め明確にしておくことも重要だと感じた。

- ・満足度の高い仕事をする事は難しいが、まち歩き観光を推進していく上では、「満足を超える感動を提供」できる水準まで高めていく事が、望ましいと感じた。

- ・平日催行される教育旅行誘致など週末との平準化を図る工夫も積極的にされている。

#### **[講義の考察]**

- ・観光コンベンション協会より、長崎さるくの経緯をお聞きする。田上市長が職員時代に長崎の市内を案内する事に尽力して、今のまち歩きの根底が出来てきた。観光で来ていただいた方々に楽しんで帰ってもらう仕組みづくり、ソフト面で何を案内すれば喜んでもらえるのか、楽しんでもらえるのか長年の積み重ね、人材育成と合わせて仕組み作りが考察できた。

- ・「長崎市DMO事業計画」の策定・検証に当たり、訪問客に関するデータ収集・分析、提供・公開を行い、分析結果に基づいて計画策定を行っているとの説明があった。長野市でも、これまで以上にデータの収集・分析、その結果の提供・公開が重要になると思う。

- ・既存コンテンツと共存できるように、位置づけが明確なため、商品として展開しやすいと思われる。ホテルや旅行会社のツアーにも組み込まれるなど、長崎ストーリーズが観光戦略の重要な要素として根付いていると感じた。

- ・長崎さるくもかつては長野市ガイド協会によるまち歩きと類似の体制であったが、将来的な持続可能性を考え、全体的な運営体制や価格を見直したところであり、今後は食事なども加えてより付加価値の高い商品造成も検討しているということであった。長野市においても、まちなか等を訪れ、滞在するお客様を増やし、お金を落としてもらうための方策は常に課題である。ガイドの人材育成や魅力的なコース設定、実際にお客様が満足感のある、代金の払いがいのある旅行商品を提供していく考え方については、長野市において参考にできるのではないか。

- ・長崎さるくは市民を巻き込んで新たな価値を生み出しているところが素晴らしいと感じた。

- ・行政主導ではなく、市民自らが作り上げてきているという意識が強く、持続可能なまち歩きをめざしていることが評価できる。

## ○ 長崎スタジアムシティプロジェクト

## 【概要】

株式会社リージョナルクリエーション長崎はジャパネットグループが2019年6月1日に設立し、長崎市幸町で来年開業を目指す大型複合施設「長崎スタジアムシティプロジェクト」の企画運営を行っている。

「最高のスポーツ・エンターテインメント環境を通して人とのつながり、感動を生み出すこと」と「雇用や地域経済の活性化につながるようビジネスとして成り立たせること」を両立させる民間主導の地域創生モデルを確立し、長崎から世界へ平和のメッセージを広げていくことを目指す。ジャパネットグループ創業の地である長崎の魅力・価値を地域の方々と一体となって磨き上げ、長崎に住む方、そして長崎を訪れる方に感動と誇り溢れる「今」を届けたいと考えている。

具体的には、ジャパネットが指定管理を行っている「稲佐山」でのロープウェイ・スロープカーの運営・レストラン事業や、プロサッカークラブV・ファーレン長崎の新たな本拠地となるスタジアムを中心に、アリーナ、オフィス・商業施設・ホテルをはじめとした「スタジアムシティ」の戦略・企画から現場の運用、スタッフの教育まで一貫通貫で行っている。

現在は、長崎駅前にスタジアム・アリーナや商業施設、ホテルで構成するまちづくり「長崎スタジアムシティプロジェクト」を進め、2024年の開業を目指している。

長崎を盛り上げたい、そのために人口を増やし、経済を活性化し、地域資源を活用して魅力を広く伝えていきたい。民間企業も行政もゴールは同じであっても手段や役割が大きく異なる。公平性に左右されない民間企業、最短の意思決定でリスク覚悟でも取り組めるという特徴で行政にはできない思い切った取組をする。

具体的な取組は以下のとおり。

- ①スタジアムには荷物の持ち込みを禁止
- ②試合後の出庫料金を出庫時間で変える（長い方が安い）
- ③スタジアム・アリーナを活用し、賃貸面積が少なくても快適なオフィス（日常使っていない施設の有効活用）
- ④年間シート購入者には高速Wi-Fiを提供
- ⑤商業施設の使用ターゲットを昼夜で変えて稼働率を上げる
- ⑥スタジアム非稼働日の演出を工夫
- ⑦スタジアムのVIPルームは試合のない日はホテルとして活用
- ⑧美味しいビールを作る事で車の交通量を減らし渋滞の緩和
- ⑨試合前後にスタジアムで楽しめるサッカー・バスケットの特番をつくりスタジアム内で放送（滞在時間を伸ばす仕組み）
- ⑩語学とスポーツを両方同時に学べるスクールの開設
- ⑪長崎大学大学院を誘致し、オフィスへ入居する企業との交流促進

## 【考察】

・民間企業であるジャパネットたかたの「長崎スタジアムシティプロジェクト」建設途上の現場にて構想をお聞きする。建設途上ではあるが壮大な事業（総額800億）をかけて、新たなコミュニティーを作り上げている内容にただ驚きであった。

・このように民間企業が自発的にプロジェクトを立ち上げ、行政が関わりを持っていく成功例の一つではあるが、他市において同様のことができるのかと考えた際に、条件が整う市町村はあまりないように感じ、現実的にはこうしたプロジェクトはレアケースだと思われる。

・長野市においても四つのプロスポーツ団体があるが、スポーツを通して地域創生、観光の流れを作り様々な分野での連携を図り地域の活性化、経済効果につなげていく様々な取組みは参考になる。

<p>1 / 25</p> <p>長崎市</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にはスポーツ単体での黒字化は難しく、スタジアムシティとしてスポーツ以外の売上げを伸ばし、ゲームがない時のスタジアムの活用方法は見習うべきところがある。</li> <li>・行政だからできること、民間だからできること、それぞれが連携していくことを大事に考えており、官民とそこに住む地域住民の方々と連携して、地域全体の幸福の総量を増やしていきたいという展望が心強いメッセージとなって伝わってきた。</li> <li>・これからの時代、どのようなまちづくりを進めていくべきかと考えたとき、持続可能性ということが非常に重要であると思う。地域内循環型の経済基盤を構築することが、今後の市民の暮らしを守り、暮らしやすさ、暮らしの豊かさをつくるのではないか。そのためには「ちいさい」ということがひとつのキーワードとなると思う。長崎スタジアムプロジェクトという巨大プロジェクトを視察できたことは、長野市の進むべき方向性を考える上で参考になった。</li> </ul> <p><b>○交流の産業化を支える景観まちづくり</b></p> <p><b>[概要]</b></p> <p>漁業、炭鉱業、造船業等近代以降に長崎市の地域経済を支えてきた産業が縮小し、長崎市は全国でもトップクラスの勢いで人口が減少している。長崎市民の暮らしと経済を支える新しい産業を確立し、持続可能な地域社会と地域経済を構築する事が長崎市のまちづくりにおいて重要な課題となる。このような背景から田上市長はまちづくりの戦略として「交流の産業化」を掲げ、観光交流産業を新しい基幹産業として位置づけた。そのまちづくりを実現するために市長は市役所内に価値創造に向けたデザインマネジメントを行う景観専門職である「景観専門監」を設置。専門監は①長崎市が行う公共事業のデザインの指導と管理②長崎市職員の育成をミッションとする。</p> <p>主な取組として長崎駅周辺、出島メッセ、新庁舎など100を超える事業を監修する。時代が求める価値は、高次の欲求（マズローの欲求5段階の5に当てはめる）を満たすことが重要と考える。</p> <p><b>[考察]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎市長の田上市長が「ただ道路をつくるだけであれば1の価値なのが、少し工夫したり、何かをプラスすることで価値が10くらいになる、そして1年では気付かないかもしれないけれども、10年経つと、こうした個々のプロジェクトの集積でまちが大きく変化し、まち全体の価値が百、千のプラスになる。」という思いを実現するために配置されたのが次長級の景観専門監である。市長特命とはいえ予算も決して多くなく、限られている中で、職員と話し合い、事業をすすめる、街に統一感を持たせ成果も上げている。</li> <li>・景観専門監の高尾氏のレポートに「100年後の長崎をより良いものとするためにも、その1つ1つの協議、そこに関わる1人1人の働きが丁寧に積み重なっていくようコーディネートすることが重要である。」とあり、多彩な人材がいる庁内で、適材な人材を発掘し新規のプロジェクト毎にチームを立ち上げるなど行政の縦割りを廃したコーディネートこそ長野市にも必要なものだと考える。</li> <li>・有識者の意見を参考にすることは、長野市においても度々行われているが、個別具体的な取組にきめ細かく専門監が関われることは、職員にとっても有りがたいことかもしれない。</li> <li>・外部人材を登用することにより、専門性からの助言と市職員の学びの2点において有効であり効果も考察できた。</li> <li>・長野市においても新産業の分野などで外部人材も登用しているが、短期間での成果を求めるのではなく長期的に関わっていただき、じわじわとでも成果を、との思いでじっくり長く、外部人材とミッション</li> </ul>
--------------------------	--

<p>1 / 26</p> <p>半田市</p>	<p>を完遂すべきと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぜひ長野市にも「家庭教師」となる人材が必要とひしひしと感じた。</li> </ul> <p><b>○知多半島観光圏協議会</b></p> <p><b>[概要]</b></p> <p>半田市は名古屋市の南にあり、知多半島の中央部側に位置する。東は衣ヶ浦に面し、古くから海運業や酒、醤油、味噌などの醸造業を中心とした知多地域の拠点都市として栄え、現在もミツカンが本社を置く。戦後は臨海部を中心に、自動車産業を始めとした製造業が発展、300年余りの歴史を持ち、人口は12万人弱である。</p> <p>知多半島は愛知県の南西、伊勢湾と三河湾に囲まれた年間を通じて温暖な気候に恵まれた地域であり、古くから酒、酢、味噌、たまりなどの醸造業を始め、日本六古窯の一つである「常滑焼」や「知多木綿」などに代表される「ものづくり」の地域として栄えてきました。</p> <p>今回の視察のテーマである知多半島観光圏協議会は平成21年3月に5市5町（半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町）の行政、観光協会、商工会議所、商工会、愛知県知多県民事務所、観光関連事業者など（計40団体）で設立され、知多半島内の観光地やものづくりなどの拠点施設などの連携により、観光の魅力を増進させ、国内外からの観光客の来訪及び滞在を促進する広域観光の推進を目的として次の取組をしている。</p> <p>1 広域観光の推進</p> <p>「来訪者の目線に立った観光PR」</p> <p>知多半島全体をカバーする唯一の観光推進団体として、誘客事業の実施、調整を行っている。主な事業は、知多半島観光PRリーフレット、WEBサイト「TabiChita（たびちた）」運営、PR出展、回遊促進アプリ運営などである。また、半島という海に囲まれた立地だからこそ行政の区域で区切ることなく来訪者が求める目線をもって取り組むことができている。</p> <p>2 横断交流の橋渡し・関係者の相談</p> <p>「知多半島を結ぶ緩やかで強固な連携」</p> <p>知多半島は決して観光先進地では無く観光に対する知識や経験がまだまだ浅い一方、観光を通じた地域活性化への期待は高く協議会には約90団体が加盟しており、取りまとめや橋渡し、助言など総合窓口としての役割を担っている。</p> <p><b>[考察]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5市5町約62万人の人口で構成する知多半島観光圏協議会の取組について学ぶ。</li> <li>・知多半島一帯の市町村が「協議会」を立ち上げて、交流人口増や地域の観光の活性化をねらったものであるが、協議会へ参加の市町村によって温度差を感じた。</li> <li>・「協議会」で「情報の発信」が効果を発揮していることがわかったが、宿泊施設が寡少なため、拠点となる場所が課題とのこと。宿泊が無くとも国際空港・近鉄・JR東海との連携によりもっと前向きな観光戦略が期待できると思うが、隣接する市町村による連携のあり方がスムーズに前に進める事を困難にさせると考察できた。</li> <li>・観光誘客等は広域で取り組むことも多いが、構成市町村の持つ資源や観光の位置づけ、財政規模等はそれぞれであり、その状況において運営体制、負担金、事業内容について、足並みをそろえて行うことの難しさも教えていただいた。</li> <li>・協議会の人員が2名ということで様々な事業を行うにしてもマンパワーが足りなく課題となっていることなども伺えた。</li> </ul>
--------------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"><li>・気候温暖、交通アクセス良好、豊富な観光資源、充実した産業と、非常に恵まれた条件下では、観光産業のテコ入れは、喫緊の課題ではないのかもしれない。しかし、小さな行政単位ではなく、知多半島を一つの圏域として捉える発想は、観光客に対するインパクトもより大きいものになると思われる。</li><li>・長野地域では長野市が一番大きい自治体として中心的な役割を担うことが多いが、各自治体の個性と意向に応じて事業を見極めることも重要ではなかろうか。</li><li>・また、長野市においても観光資源を磨き、新たな資源を発見し差別化をする必要を感じた。</li></ul>
--	---